古今和歌六帖標注

五

古今和歌六帖第五

雜思

きゝぬ人　いひさゞむ　さゝへてふ　さゞめてあへる
あゝ　おもふ　あひそふ　あひそいぬ
きと人を思ふ　きてそふ　いさでそふ　人きゝぬ
人は きゝる　なる物を　ひとりね　ふるものを
ふきて　晴るゝ　一おとづれる　ふるものを
物へぶてたる　日ぶへぶてたる　とへぶてたる　こゝろ
うちきてあへる　雪ふきま　物ごゝろ　ちゝくてはいぶ
人をまゝ　人をまゝぞ　人をよぶ　そのたゝり
ふゝたゞん　ひゝげて　見きる　いひきまぞ

曜文庫
紅葉文庫

ゐこのたる　わどうく　むのはらふ
むゝあるく　ゐのらふ　人をたゞぬ
めづらし　たのむる　くちうさむ
人ばま　家書をを　ゐひやそ
ゑどあいぞ　人をゝむ　ゐひうづふ
をゝまぞ　なき名　なをばしむ
くれづま　ふおき見ひ　ゑせさ
かゝ　　さんよ

服餉

玉くしげ　玉うづゝ　かゝ
くし　たま　玉のを

もゝひ
玉だすき

かゞゝ　まくら　手枕
きるも　塩やき衣　衣　衣
衣うり　かり衣　きぬ衣　秋衣
このき衣　ぬぎぬ　あさゞ衣
裳　ひも　ざの衣
きのき　ふゝ　ふしま
ゆゝ　や　ひとり
さゝや　きのり　ふゝ
みの　このゝ　このな
　　かさ
色
いろ　きぬなる　むゝさも
　　くちな

みどり
錦綾
みしき　あや　いと　つる
ぬ　乃

新勅撰戀四　御形宣旨

大空ふるこがおもふ人をやどゝもあるむるもゝぐるかなゝとおもむ

万葉十

春去者紀之許能暮之夕月夜覽来無裳山蔭爾指天

真淵云此あきの野ふのうつさ是あしびきの山ゝ入るゆいに

万四　新勅撰こゝ人をゝ

大和

ぬ万新

なのゝゝの女郎

万七　きうぬ方

拾遺こゝ人ゝ

躬恒集

友則

新古今覊旅　業平朝臣

後撰二　家

後撰

古今戀二　たゞみね

たきつせをねぎ〜さめぬ淀まれ
らもるる舟もなれハするる舟

埤雅釋魚云陸陽目然變化論曰龍不見石人不見風魚不見氷鬼不見地

直淵云石紫のまきふ
あ〜さ浦よこゝあハかくゝも
ろ〜ゝ立ぶ〜うくるなゝ〜ゝ
かな〜　少納言

かくゝへば忘れぬ人ぞ形見にときとゝいふ
後憲二くるぬ　紀伊
つ玉浦ふき入ぶよこぐ舟のうきてゝる
万十一　續古憲一人丸
この山ぶゝ舟の岸〜こぐ舟のうきてゝる
古憲一貫之家
世ぶ中ゝかくゝてみゝれ風のめゝこゝぬ人も忘れ〜ゝ

いひもぐむ

後憲六ゝ人ゝ　躬恒集
ゝ見ひつゝまぐいひ初めぬ
同
おもひ法〜へよゝるゝまとゝ忘べゝて
まぐゝ〜ゝもいひゝぬ人の
古憲一ゝ人〜ぐ伝
忘ゝ〜ゝらぬなゝゝあやゝ
万十　夫雜三岡人丸
出てゝるむゝひの見ゝ
新勅憲一ゝ人〜ぐ
ゝ〜ゝ浦　夫雜七浦
する白波の忘〜ぐ形見ゝ

ゝ忘かゝるゝ〜ゝ忘ゝ立ぶ浦ふ
ゝ忘もあぐゝゝ
ゝあるゝ〜ゝ
ひふゝ〜ふ乳の淵をゝ〜ぶ〜ゝ
ゝあゝ〜ゝ
かゝゝ〜ぶ〜ゝ
ゝぶ〜ゝ〜ゝ
見ハあ〜ぶのゝ
拾遺戀一　九條右大臣
さゝゝのゝ〜ゝハぬれぬ
狩衣一
おゝひ〜ゝ
ゝ〜ゝ〜ゝ

後憲四夜則　家
ふハゝれぬ後
ゝ〜ゝ〜ゝ
拾憲一ゝ人〜ぐ　常陸
ゝ〜ゝ〜ゝ

後憲三
ゝ〜ゝ〜ゝ
ゝ〜ゝ〜ゝ
ゝ〜ゝ〜ゝ

九條の右大臣　師輔公　貞信公男

同四　敦忠　拾遺
ゝ〜ゝ〜ゝ　朝忠集
ゝ〜ゝ〜ゝ
ゝ〜ゝ〜ゝ

後撰七ぶ〜ゝ本院左大臣時平公男
ゝ〜ゝ〜ゝ

万葉十三
榛垣久時從變為者吾帶緩朝夕毎
新古今神祇　住吉御歌
むつまゝ〜ゝとるハゝ〜ゝ
久〜き世ゝ〜ゝ

万四　圣　拾雜滝人丸
ゝ〜ゝ〜ゝ
同十一
ゝ〜ゝ〜ゝ

伊勢

第三巻出
思ひ河はるぬ[illegible]なごりてくみはあるうらうたく人よあぶで消めや

後撰四
やまびこの後
[illegible]公[illegible]たてしもを[illegible]へぬる後[illegible]物思ひをさしぬ後人まみ
びとの方に　仲平公　藤原昭宣公男

たくゆき

いくひさしく[illegible]ありめまやあるとくる[illegible]海もそろく[illegible]ける[illegible]
万五　新十意二人丸　古本人丸集
あぶぬの[illegible]せとまのきて妹とあれとめよよいあくてくまぐくよくる
新古意　西宮左大臣　ひさかた新　きし市　と新　しほ新
と月[illegible]ぬるあれど見ぬ[illegible]の新　ひて新　まぐ[illegible]
古意二　よしべ
[illegible]あぶば岩ける[illegible]松は生あるもと立もてちひぶをざるめやい
上野
[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

新勅撰戀二　よみ人しらず

いろくさうを物思ふときまのあさとは
うゝ　これあるふるてふかるゝ人

天曾遣車云楊貴妃初承恩召與父母相別泣涕登車時天寒淚結為紅氷

古戀三　家

白玉をこゝろ〳〵にはなもがな　ふきぬ〳〵ふきぬ〳〵ふるとはゆめ

こうつね

同　後戀五　拾遺　伊勢集　業平集　廿六

たのめつゝあはてとしのはてにしは　ものをこそ思へ

是も

同五

ふるさとを思ふ〳〵はるの草　はるのをくれにはなもさかなん

万十一

あゝ玉はなにはへぬかとふ物の　こゝろとしるふるまでふるとは

同

山ぶきのそこにぬれてさくひとせ　ゆきのしたにはなのこゝろを

続古戀四　坂上是則　家　代宮三

さくらゝ　さのかきりたるあるなるを年ふりて物い思ひさまし

平

出て見ハ　あまの方　りの方　ふるものゆゑぬぎ　はかの方

同十

きのふ　はかの方　條東宮　よかの方

ものをこそ　ひの方

万葉七

是山黄葉下花矣我小端見友戀

古今離別　つらゆき

ふるさとのをくのゐ　ゆの井ゝ
ありてゝ　人をとゝれぬるかな

拾遺戀二　よみ人しらず

ものとはゝ　ものとはゝ　ものとはゝ
わのうふみえ　かげはるぞのこる
おもひそ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
くやゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

契沖云万葉に大野川原と出く雲
梯杣ふ石見と云さ也ふてう今按
ずるか万葉ホ十四武蔵国のうこ
いりまぢのおわやがちゝ　ゝ　ゝ　ゝ
川入間郡ホありとみえたり野の字ハ
音ヨ　ヨ　ヨ　

人麿

大伴坂上の郎女

同四

古憲三

後憲三

万葉四

大伴坂上郎女

拾遺戀二　平行時

同

後憲三

續古今哀傷　藤原孝標朝臣女

大毗盧遮那經住心品云陽焰性空

彼依世人妄想成立

後拾遺雜二　よしみち

仲文集

後撰戀三　坂上是則

後憲三業平

同

後

後拾遺雜二

第一已出

後憲三業平

行平

後

万葉十一
中々不見有従相見戀心益念

あハ標く注連くるうもとあくべの世たり注連ハ書紀神代巻天石窟戸の條ニ於是中臣神忌部神則以端出之縄此云斯利倶梅苗波乃請曰勿復還幸云　まく和名抄祭祀具云注連師説之利久　まく万葉二如是有乃豫知勢婆大御舟泊之登萬里人標結麻思乎とあるこれありこれハ標ハ注連も牢の意ハおなじ標ハ和名抄雜具類云本朝式云五月五日競馬立標標讀郎木とあるこれ」

拾遺二　吉本集　廿六
あひくるの浦のくるぶまが苔を物をおもざりけて

敦忠

やこのもち

万三　夫雜十四標
ゆの笑松とのきよみ夫
ゆ万　ゆ万
笑の松さひけばうぐ夫
しく　しく
ゆ万

大伴のさるこのまて傳未詳

同
心ぬいけぐ　もり万夫
あくもてまもるがあひてんあを人とくんやも万
ちんき

さるこのもち

同
うくんよ笑ゆてちくぬく人ちいへど系しあひ　杜あくそやち

同七　夫雜四野
萬妹やたくまの笑ゆ
の万夫
あきて　あきまし　と今ぞ　ゆき

かふ杜

同　同雜十四標
きくひあるくるくんくくん
ゆ万のあさぐ人ふうくそ

契沖云淺茅を人ふたくふる事和漢の心あるべし詩衛風ニ手如柔荑云ゆ鄭風ニ云出其闉闍有女如荼注云荼茅華云ゆ待ゆかくたくふふつぐゆの白くくるゆくきを女ゆくくるゆくゆ今たくふふ秋る成て実結ゆあひをづけるゆ紅葉ゆ似ゆくくゆ」

真淵云妹ゆ恋ゆくくる事ゆ事ゆくふ入くるハ誤ゆるべし」

万葉十
足曳之山田佃子不秀友縄谷延與
守登知金

まく七ふ
石上振之早田乎雜不秀縄谷延與
守乍居

榮花根合巻
さくくめれ山田のくくくあくくもて
いくげやさゆくくむくれやくせ」
契沖云ゆくくれくう万ゆる淺松
ゆくうくくく

万葉十七
安良多多麻乃登之可敷流麻豆安比見祢婆「下同」
[illegible]
あるよろ〳〵 神代紀ゆ情愛を
めぐ〳〵とよめり 万葉十一
人毛無古郷雨有人乎愍久也君之
戀雨今死

万葉笠女郎 後雜歌 ひくらの里
[illegible]
同十 万後 ぶひと 万後
[illegible]
同十 人丸集 と 万人
[illegible]
同
[illegible]

同十一
[illegible]
[illegible]
万三 鏡王女
[illegible]
続後拾遺三 宗于 古今集 貫之集
[illegible]
家
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

万葉十一
吾妹子之吾呼送跡白細布乃袂漬
左右二哭四所念
同二十
比佐可多乃安米波布里之久奈豆
之故我伊夜波都波奈爾故非之伎
和我勢

大伴家持

後撰戀六
おもひつまじくいひそめぬるこがらもを
おもふ一人は恋きてしがな
和名抄鬼魅類云内典云餓鬼加岐
其喉如針不得飲水見水則變成火

五四
おもひぬ人をもあやあれ白妙の袖ひつまでよ
夫春六巻
まてど来ぬ君をも我れ待つ久方の天の川原に
人まろ

吉本集
あひおもはぬ妹を伊きんぬぞ玉の一枝も寄るよみんもこそ
第四巳出
我れ恋ふる玉まく葛のうるさ〳〵
同
ひとりのみ思へばくるしいかにせむ
五四笠女郎
夫雜十等
この比思はぬ人を思ふい大寺のうぐきの寺にぬるづくがごと
同山口女王
我が家にはおもひぐさもあぬれば思ひ枕をいかんたん
こうま

吉本集
君の形ふあまてる月の光りにあつけずいでつるまゆみをもあきんとぞ思ふ
おもひをおもふ

契冲云第七あくとこそふれば人に
おもひをあくとこそいひあつかるる古
語あり

万葉十四
多爾世婆弥美年爾波比多流多麻
可豆良多延武能巳許呂和我母波
奈久爾

第三巳出
みくまの浦の浜西よりくさまくらおもひしなえぬ
五四
我が恋ハ人よりまさる
同大伴宿奈麻呂 夫雜十和布
なのりそ
同上 人丸集 夫春三又雜九
妹がかゝりてのげとさゝ
古意四
さゝなみの
同
なのりそ
あれまき万夫
たれかこの
しる
ぬ思へど
伊色
なりぬれば古郎
ふたみ色
れ
思ふてあるもの
おもふてあるものをうけるれば同一人やらをうける
夫雜八水骨之 河藤重歌集
ふるかはのいはまをとほる
続後撰二 平重文 大 たちもとのもみぢ
ゆ
ちるもみぢ
の続
拾感 寛諦法師
ちのまてこそ
緋ヲカス
ちのこそ
思ふらん人のこゝろ
思ふらん

頭注云トヨミソギトハ大嘗會ノ御禊也大嘗會ヲトヨノアカリノ節會ト云
ナリ禊ヲバタヾミソギト云也

世とともむ　ちとのみをきとう　ちすて
きゝ　ものの　ゆめ　ゆき　ちゝ　ゝ」

人麿

万十一　古本集　ゆきを　百寺　ちち
うちひさす　宮ゆ　人　おもふれど　ふきゝ　ひとりぬる　夜も
かおかゝ　ス八　古

後憲三　忠岑　家　京信明集
思ふてあや　ゆゝと　ぬるゝ　ぞ　ゆゝ　信

代憲二　古本人丸集
てゝ　ちゝ　ちゝ　ゆゝ　きゝ　みなゝ　ぬるゝ　人も　仏　ゆゝ　妹　あハ　ぬて　方
あゝ　ぬて　ぶ　さ代

万四坂　夫雜六河
うつゝとゝ　思ふ　ゆゝ　川の　せゝと　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ん　き方

いなでぬる

大
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ

古憲　ゆゝ　ぬ
あふ坂の　せゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　社　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　古

ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ

人まろ

万四　笠女郎
戀爾毛曾人者死為水無瀬河下従
吾痩月日異

古今戀一　よゝ人ゝ　ぬ
見川の　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ

たぎつこゝろを　せきぞ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ

万十一　家　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ

後撰二　拾遺一　家　風体

名にあふぐるぞらも流てまし見ふん銭しる人のあ家

万十六　夫雑十二屋

あさこあるこのひやぐるよあく性思びつゝあとつぎんよもの形

古撰三

名れこのきてようれ本あゝまぎいるきんとあひん初ろん

第一已出

さゝの葉よこをわまの松を宮みきふつくもろる出めや

万七

あさろこの七津の浦よすもるもんあればこて波立ざゝろ

大和

古撰二　寛　新撰　友則集

川のそふなびく玉のみぐゝ逆て人よゝゝまぬ恋もするれ

同

人ゝゝ逆ぬ思ひそ歩よすだ形るふでの山こて家あゝ逆

万十　夫春六藤　赤人集

岩波よ笑まの形るよふ音の考てはば恋て久ゝゝもあゝ

よ型このふれんちやくゝも風つるよろたてゝそおまふ

なのふそゝるきてくも焼ぶの御思びやまくるやせをぶつくさん

要文

忠峯

万葉の傍訓不忌深を[illegible]

よあるハろゝゝあのまくゆゝ

みくよもべゝ

古今戀一　よゝゝゝ

夏あれば有るふまぶかやり出れ

いつまで多身下もろるせん

万葉十

吉名張乃野木兩零覆白雪乃市白

精神戀吾鴨

同十七

宍津乃海之保悲恩保美知時波安

礼登伊頭礼乃時加吾孤悲射良牟

同十二

人言繁跡妹不相情裏戀比日

万十　宮本人集

人言繁跡妹不相情裏戀比日

同　同

あゝくよいぞゝいたぶゆゝ

第一已出

みゝこのよとろゝ弥ふるこ形あれやろふあれく立ろゝん

後撰五さぶのゝゝ

ひゝゝ立ぬ物見よ弱のこぶそでぶあきのろるもよおゝゝざりも

万十一　夫冬一霜

ゆきゝゝよのこまを立めゝゝ新戸出よ形ふゝつけて人よ立ゝゝる形

第一已出

我やどのれさぎのろるおくあれいちゝろくきる系立めやろ

古撰二

まのぶればくるゝきを物を人ゝまぶ見ふてゝこ形よろゝん

新勅撰　新撰

新勅撰三

夫雑二山

ゆゝ山のやまよろるよ形ゝこれあまやろるゝゝこまよ形めゝむ

加賀

万上

ひゝゝあのゝゝとたるかくのゝゝまゝればいづれの時ろれ立ぶゝん

同九

拾遺八首　新古撰入九　古本人九集

ろゝとふゝよまの田のほるふいでぶゝんのうちよこゝるまよゝろ

家

さくまのあまれたる竹本の春れども人よりまさる家ぞ恋しきん

つゝゆよ

家

あひ〳〵ずばいろ〳〵ごとのなげくなよさずみとく人きよめ氏

人よりまさる

後拾遺雜一　人まろ

福ぬみちの福ぬあれいろく立ぬれば
なほ大海ないけゝごやうに

吉憲五伊勢　家　新撰　金玉集　たゝ吉金集

人きよ〳〵ゆゝ〳〵ちまーらばこびつもなき名ぞだよいきまー物ま

同憲一ま久〳〵

おもふまハ思ふたとぞまみよ〳〵る色ハ出ーとおもひーとの桜

万千　吉春人丸集

小男鹿のちの〳〵ぶしいちーろく恋ひとハぬよ人ぬきまるん

ほづゝのまうーー　万葉ぞ恋ーと

同二但馬皇妃

えとごとをきびゝこちゝおいの世よいまーー海ぬ海ぬのまうー

人丸

〳〵ふおもひ物をれ山の初まゝぞのをよ出るけま

長忌寸娘

万葉八

布待見跡吾念君者秋山始黄葉鬼
似許曽有家礼

山うゝ夫木秋三康よゝ人〳〵び

山科の山のをの〳〵ふまを康のゝ

又雜四野

やまーろぬやまぶちの形くふす麻
のゝゝとありを拾ずるまちまくま
ふけのをとあるハまゝくうつ〳〵
浪まるなるべ〳〵」

真淵云きゝホハ束とあるハいを真
楢とあ〳〵ゝめ〳〵れて後のうきあれを
ちゝこそ出べゝりゝま」

第一帖初秋

あづまぢぬいさめ又きとハ初秋ぬ
せきあきをひゝ〳〵あゝにゝ色ぞ

万十二作者未詳　又十七平聲ぬ

きゝあり江のあまう白屋のいをゝ〳〵出ぬ人のまるべく

ひゝまゝて

やのまち

山陸のうまのみををふまを康の名ふーーまて人よきゝる

万八

おひとうをまを

菅系やはう

ものまゝて恋日やいづこあまざゝう出てあゝねば出つゝぞをる

いのゝ〳〵おもをべゆきん月影の指ゝびゝる名をゝもてる

美濃

我のゝと思ふまやまのいさめ里いきゝをゝるをちひあゝつる

万千　夫秋月人丸

きゝ出ゝと恋ふゝ〳〵ぬれ恋をまバ秋風吹て月のゝぶきぬ

同十

めぞ多の指ゝる月の名ゝれバ文ま妹よ系恋をゝん

第一巻出

秋をちゝきなゝ多ぬ恋ぞよ指起るくこゝる指ぞおかき

万葉一　忍坂部乙麿
像愁寝之不所宿爾情無此渚崎爾
多津鳴倍思哉

万葉かくさりにとある一ー河内之
同十五　冊比大夫
多都我奈伎安之敝辛左之豆等姚
和多流安奈多頭々々志比等里佐
奴礼婆

遊仙窟云昔日雙眠恒嫌夜短今宵
獨臥實怨更長

人麿

吉本集　風慈三　万風
ひさかたの天の川瀬に思ひなくに
うらぶれて　なに思ひそ　万風

大伴坂上郎女

同八　拾貫
ふる雨にいたくな降りそ　雁鴨の
かさの重村　万葉集

同四大納言大伴卿　続後撰旅　夫雑五江
ふるさとの入江にまがさる芦田鶴の
あゆたづ　万夫

代秋上　よ代
鶴の鳴ふ初てのくれ　ふる代
伊勢集　伊　おきあるる集

人まろ

玉慈二　代慈二　夫雑七鶴　古集
鶴のさわぐ入江の水の
万十　拾貫　人先集　赤人集
ほたるいぶ　ほたる　万
貫之集
秋風の吹くにつけて
ひとり寝

家持

万九　新古慈五　き万新
玉匣あけまくをしき
吉慈二　き
あきの夜を
拾雑秋　家
鶴の鳴くなる
秋風の吹くにつけて
万十
ひとり寝

真淵云太刀ハ男の具鏡ハ女の具
なれバ今ハ男のうとくなりぬる
万葉四　笠郎女
剣太刀身柄取副常夢見津何如之
怪曽君爾相為

万葉十
黄葉乎令落四貫礼能零苗爾花副
衣寒一之宿者

同十五
安之比奇能山下比可流毛美知葉
能知里能麻河比波計布仁聞安留
香母

契沖云ひもを結ぶと妻をむすぶ
ふようするふまれがたのれば
みとはいへるなり

家持集
おくやまのいまだのはぎをひきふ
下同

同
後六
田井ハ万葉ニ筑波嶺のまそ鏡
たるあをくもそ田ふまろする
いふなりそのことふ師の万葉考證
くはしくかきたり

万葉十一
曾不見戀吾妹子日日來事繁

万三湯原王 太雜二山
同九 同春三柳人九
同廿大徒宿祢村上
集四巳出

きの五女

大和

夏 雲二 妻二水鳥よりくしぶ
かるの池の入江めぐる明るぶるる五月雨のよる猶ふかなくみ
こもりたれのまぶひよりぶれて拓さへぶ七き時とゝ祢ぶ

貴之

新續古臺 代憲 家
八家
百中臣朝臣東人

ふるさと

古臺

ふるさと

同友則 友則集

ふるさと

法ゝゆき

源重之

俳諧　朗　京集　ぬめ古　てふ古閑京本

つゝ法師

同憲三　京集　新朗　小町集　も京

小町

同　家　ふとぶ古家

同　人丸集　らひく方　家　さやくきを方家　けやぶ家

同　夫雑十蔭　どと古

閑院の大臣

吉憲三　藤原国經朝臣　さく方　つとめおきく方　ゆくきく　家　おきま紀集

新勅撰戀四　中務

古今雑上　是則

後撰戀四　忠房朝臣

伊勢物語

算一已出

吉憲三　敏行　家　寛

後憲四　貫之　家　拾憲三　朗　穆方

吉憲三　敏行　家　寛

後憲三　貫之　家　る家

万四　新勅　夏　村　もの方

同十一　京　人丸集　ひぐこし方　すゝ　家　あゝ　ど古

つゝゆき

五　八方　五方　傳来詳

[illegible]

家　大和　河松尼

一　[illegible]

[illegible]

夫秋二薄

[illegible]

同雜十藻　家　夫家　大和　らん家

[illegible]

新勅撰　夫春二著　五品大伴女郎　夫雜一兩　夫

[illegible]

桂園翁云[illegible]八隅夜をよひまぜい隅日をいふごとく

古今冬　春道列樹

[illegible]

土佐日記云かぢとりも[illegible]

[illegible]

万葉累解云紀に手玉玲瓏をたまもゆら瓊響瑲々をたまなるもゆらとよみらの集せんとるゝふゆらく玉のをゆらぐを思ふ物に付る玉代おもふてある事さそその音のかすゝあるも別てはくあくとゝき事にとりてくいふなり

書紀神代紀下云皇孫未之信曰雖復天神何能一夜之間令人有娠乎

同十　同　夫春二著　同　風窓三　家　それ家　同　古本人麿集

[illegible]

同九　八方　同　家　賈之集

[illegible]

のへ　　　

みられずこそきてあるべけれいづくにか
いつくしきよとてうたるらん

喜撰式能因哥枕等不載之歌
とりつとこゝ大和物語
大淀の浦にはべりしたえぬくも
源氏夕霧巻云なこりの名くきふ
さかりをつくしてかきそりたまふ
むかしの人の夢の夕八圓珠庵雜記
玉かつまあるべきいへれとかをそれ
もぶきち

肝消

思ひあてそむくなげくなきもきこえて絶きしまの我身の夕ゆふ

山城

いづくにかたえんあるこゝろ思ひかねどあまのつりぶねこゝろ

三日ヲ夕ヲ

五九

立うせる月をあかりてあるまどもさらぬ高くまこの面影すてあ

人麿

あしびきのやまどりのおのしだりをのながながしよをひとりかもねん

拾遺二家

五十一

あひてそはいくえもあるまくらかはるのはるのはるの

万葉五
波漏〻口爾於妥方由流可母志良
久毛乃智弖仁遊多呂留都久紫能
君仁波
同十四
安齊可我多志保悲乃由多爾於毛
微良婆牟家良我波久奈乃伊呂爾出
米也母
契沖云みちのくふのあさらあべし
同十二
肝脉而君乎婆見登念鴨日毛不易
為而戀之童

たちぐとうまのあぶをてハまれのつらひも嫌〻うけを
万十一 夫雜七沔
ひて見て来てぞ恋〻き新まぐる心幾つもおきてひねぐてあらも
第二巳出
ゆきやあ〻やいぞ秋の那よもちハちきとも あ〻ぐと思へば
法〻ゆき
後意三
月うへてるちぐとうとひ〻ぐるよくられば恋〻き物を
家持
あ〻ひきの山鳥ぐてとゆきもばん〻てゆけうるみんけ雪
万上巳まろのん
第一巳出
ちうてハづるやいばぐまろ〻ゆのたぶひぐ〻ゆきとえて来ぐえん
人まろ
古本集
まろ面よ〻ゆの神ハひちめ〻ん妹ぐゆ物ぐ山ちまえあん

真洲云此大系ハ心悔るあぐび大和へ
万葉十一
眉根削鼻鳴紐解待哉何時見念吾
君
諺ふ人見れちいふとき鼻ゐるとぞ
毛詩邶風終風篇云寤言永嘆願言
則嚏笠云云我其憂悼而不能寢汝思
我心如是我則嚏也今俗人嚏云人
道我此古之遺語也
和名抄鼻口類云玉篇云嚏和名波奈比流
噴鼻也
まさ眉のつゆきふ人ふこひらう〻ぐる
し〻ありとぞ
遊仙窟云下官昨夜眼皮瞤今朝見
好人
今業ぐるふ玉〻きて行ぐもとあるんを
ふとを誤り〻ふべ〻玉ぬて人持

万四家持
かぐ〻てゆ物やまろらんちろらぬ玉のあひぐをあづ〻まあり(き方)て
うちきてあへる
あべのあ〻まろ
同八
秋の那よちを花ぐ来ちをうきろけてきつるもちるぐあへるるえう那(も方)
同四 志貴皇子 續古卷三 夫雜七遊師 第六重出
おほ原のこの市柴のいつ〻うもとあ原ふ妹よこ〻ひこのへるこも(と方)
同十一
ぐるあれば生ゆ〻はは那ひ眉うあ〻思ひ〻こ〻ハるる〻ゆけう
同十
ぐあ生ぐあづぎ来るちをこひぐ〻ゆ那の更ゆけば妹ゆあへるうも(るのふびを方)
ひの〻ゆのとゆ物ちく来待〻ゆぐぞ来ませる那ちをうれこそ
やこのもち
万八家
きぐみぐあの門田をとうと出てこ〻ゆ物ぐ来ぐ(うも出万家)(ころもきぐくてま月うも家)
いも万家
とひ那ゆ
五来那待ゆ来べきゆ物あれやまれあることひあくまでよろん

後撰万葉ふかきこゝろあり六ま
王敦而待益欲利者云まる
豫公來座武跡知麻世安門爾屋戸
爾毛射數益乎

古今夏

ふるやぶ
なつの夜はまだ宵ながら明ぬるを
雲のいづくに月やどるらん

後撰戀一

よみ人しらず
やるとしきかばあとぞこゝろ苦しぬれば
ちとあらぬよ恨きやまぬ

五田部皇子様子
おきてゆくば妹まちかねん
かゝの條再出
ゆくも妹の言葉まちかねて
ものこそ

後撰
後イ
晴もと伊勢物語
あくるまでみるべきあるぬるのゆめをまぶこの月のあらびさ

万八加茂女王
海の路もあく思ひきふあるこよひの
ものごろも

芦垣の月のぼりぬいでゝその夢のむすめ物ごろもん

兼輔集
いすゝ人はるのゝ時なるいろまさりてふるさとの新

拾遺賀一 藤原政 夫雜士里よみ人しらず
あるの時はいろの花さひようゝ
いつ〳〵ん思ふこゝろ拾夫イ
近江
いぶきのさとの住ようゝ
拾
るとあれとちるの山もまぢかは那どやあゝん思人ゝ
いま雄イ

ちるくてあそび

白雪はるのまつさとふる雪はるのゝ城あんあの坂の一夜

古歌
ひとゝきぬ思ひや伊のそあゝ坂のまぢかれども
後撰
伊勢集
春のゝ花のもとゝ人ゝ思ひ下ゝるあゝ坂もつの一社

たゞこゝふる思ふまさあるすゝ海のたそれ時よその袋あらん

古今六帖
たゝくまもさゝうつゝ白それゝ人めをおそゝ言つゝそもとる
風雜上貫之家
山のそこよ入あるとするわとつ系ゝなゝあゝんとやする
續古歌一伊勢家代盛
このぎり那ふ思ふ海やこゝとゝかゝ寒まさるゝん
おゝる家

人をまの川

万十二
おもも神でまつけもなゝ白波れ元もとゝゝ見るまで
もぬゝたゝ方

つゝゆき

万葉十二
將相者千遍雖念蛾通人服乎多戀
乍衣居

古今戀三
よみ人しらず
おもふも人めつゝみのたゝきれば
うゝとゝなるゝゝゝゝゝゝゝゝ

古雜上　拾雜憲家
おきつ波たつの[illegible]
和泉
代憲二　貫之集
[illegible]
古憲[illegible]
[illegible]
第一已出
[illegible]
百十
[illegible]
同
[illegible]
同　新千憲三
[illegible]
古秋下友則　家　菊合
[illegible]
第一已出
[illegible]
古憲五　兼盛
[illegible]
百十二　拾憲三　人丸集
[illegible]

續晉陽秋云陶潛九月九日無酒於宅遶菊叢中摘盈把坐其側人望見白衣人乃王弘送酒即便就酌而後歸

此[illegible]袖中抄第十九[illegible]山のたゝ[illegible]
いでぬいざよふ月まつとゝ[illegible]

万葉三　藤原朝臣八束
妹家勇開有感之何時毛何時毛特成時爾事者將定

吉憲　朗詠　金卅家
[illegible]
[illegible]
吉憲五　[illegible]
[illegible]
第一已出
[illegible]
[illegible]
[illegible]

此歌は人の万葉のこゝろをよくこなしたるなり
めでたきあるべきなれども
拾遺神樂歌
すもろこしの人もなびくまでに
なびくやうにとまつりいされん
真淵云この人されバのこゝろ詠ハ
こゝろそこゝろのハこゝろ

万葉六
我屋戸之梅咲有跡告遣者來云似
有散去十方吉

万十一 古今人九集
伊吉のきゝ
ゆかけすもらゝ
同十
あをれば
同二 磐姫皇后 又云衣通王
記下 衣通王
人もとゝ

万八 巫部麻蘇娘子 家持集
春の雨の
同四 湯原王
つきよゝみ
同
月夜のひかり
古歌四 よゝ
はぎ
天歌八 紅葉
夫
山城

万十 同雜上三 古今人九集
春の萩
同 人九集
ゆかまた
家
有ゝ彩よりそ
大家
きの女郎
万八
やゝ
躬恒集
後春中 ゆきのおそきゝ
ゆきゝ
ゆき
躬
春下
春
万廿 安部つむ

古本躬恒集
[illegible]

万十一 玉葉三 坂上郎女 古本ノ左集
[illegible]

古本集
あもちきなる花の俤よりふるれども春さへあぶる雪ぬぐ[illegible]

躬恒

万八 玉葉三 [illegible]
[illegible]

さくるの大臣 傳未詳

ふくたぐ

古意四 新撰
[illegible]

くるかのあい

夫雜八 碩 [illegible]
[illegible]

常陸
[illegible]

句題和歌集の末か
あづまちふへづてとうもむさ[illegible]
ふ[illegible]たがふなすこおもひてぞやる
伊勢物語
むさ[illegible]あぢさずふりたたのむ[illegible]
[illegible]

このへ
[illegible]
かる[illegible]や人ちもめ[illegible]
庭訓往來云上総鞦武蔵鐙云云

拾遺賀
三[illegible]なる[illegible]ふ桃の[illegible]
[illegible]

文選嵇康與山巨源絶交書云私意自試不能堪其所不樂自卜已審云

万葉十二
白細布之神祈返戀者香妹之容儀乃愛二四三湯流
[illegible]
八[illegible]

ひとつく

万八大伴田村大嬢 拾雜春六往像見 大夏三 [illegible]
古[illegible]の[illegible]の昼[illegible]

後雜三 貫之集
[illegible]

第一已出
[illegible]

古意四 [illegible]
[illegible]

山城
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]

いとことハ[illegible]衣をよ[illegible]

古今戀二　小野小町

いとをあてまたいしき対ハぬぬ[illegible]

くるのの衣をえ[illegible]てぞきれ

るうくやくしめあるべき

新古今戀五　藤原定家

世のうきもの人のつ[illegible]きもものふるに

ものいしきこそ思ひしられ

万葉一長歌ニ秋山之木葉乎見而者黄葉乎婆取而曽思奴布青乎者置而曽歎久曽許之恨之秋山吾者

[illegible]

続千載　代憲五　家

おもへ[illegible]思ひいづ[illegible]

[illegible]

第二巻出

三輪の山いかまもちんまふもたづめる人もあらじと思へば

[illegible]

[illegible]

後意三

[illegible]

[illegible]

夫雑九鶴　新朗

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ろくその他たくさんあるみちぶの一首おどろくべき歌まことに沢の四首はまことにいくさの歌なれどおなじ四首は誤錯乱誤脱していくらかふしたるなり

後撰雜一　女のもと

小山田のおとろくまもなきうきをいとゆくるまはけきこゆ

同戀五　本院のくら

ゆくれば袖をとひとつあかぬまもあれどとうあもつくきあるよりける

真淵五万葉の天皇思酒人女王御製とあり是は聖武天皇の作なりさるを天皇とあるふようて天智の作なるべきはいかにやうてあるのみぞとは考へるあるべし

古憲四黒主

おもひいづ

おもひいづ

あるのうちのぐ

万四

あひくもきりてふるまの宿ばけぬるふてふこぎもこ

[五之十二]

真淵云此うた万葉の挽歌なりさるを考のうたに思ひてあるを入れまれしいとゆゑなり

後憲四よくしば

おうのくにまくぐ

むうしもとあ

万長長手意吉麿　拾憲四又雜憲　大雜二松　新朗　金集

岩代の聖の御ま

同三土理宣令　續後拾雜上よくしば

ぐ

同博通法師　三雜四

ハ

同二　夫雜上松

いそのろの浜松ぐ

契沖云此うた齊明天皇四年の謀反の中人あるられて十九歳で紀州岩代なる浜代なる浜べにて殺されたまふ時の歌なり

あくまのみこ

なぐはいきまろ

意吉麻呂ありおきまろ意ふる

おのがまつ又

五三 夫雜八岸口

岩代のきしの松がえ結びきん人さきくあれば又をこんうも

人麿

鼎洲云此八或本のうたを右の意吉 同 玉雜五人七 夫雜十松

九のうたをうたへ誤しものなり

のちにみんとまたかへりみる岩代の浜松がえをまくらむすんうも

けんぢ

法師

葉平

古歌 家伊

つきやあらぬ春やむかしの春の月ものの妻あるぬ系ひとつ

行まろ

五四 万葉 夫雜二山城

今のみはたらぎ方ひとつの人で恋ひてなるきそへあきの

同七 夫雜二山城

たまの重ねをもすがおもかくしてるおもかの

貫之

古語拾遺岩屋戸除云阿波礼阿那

於茂志呂阿那多能志云云

後拾遺雜五 帥前内大臣

あさぢふにあれはてぬとも思ふかな

松ちるばかりあるみるこの秋

古歌 家

いまはしふ秋をうるこころのれもひしきぎとてまこ云まして

新古哀傷清慎公 伊勢集 朗

女郎花ちるをみるにもあるかなとていとぎむうの秋をこそ

ほうぶ方さぎのふるとふあるれ雪のおもかるかな

むこのしあへるうた

万二 古本人丸集

まの秋のきしみ思るよいまうみ人をあひこるる秋

同三 博通法師 玉雜四 梵天東出

いとやとまたてる松のまあまこれば雪の人をなのひらてぶごと

後雜三山 家 芽 河

ひきこ名河後イ

雪ふるに人はうぐいすこそ後家

万十 夫春四花人丸 赤人集

住吉の井ちかくまつ赤ぶさるる松のまいや方めづらしくるぶあへるうも

同七

おもかは方我おもかへば方ちかくまきてきもかれ方ちかくきてきもかれ方衣をれてきあやも

同 高市古人

いまはしの人系那ぬやさぐ波のふるき都をこれば方ちかくまきて

同十一

うつるも雪ふるも系那ぬ昔ふるとまびふるとふ

詞花賀　　清原元輔

松ばかりのこりてもれるあしのやの
あのぐさ風にしをれあるかな

後撰正義云倍采ヲ大海ヲ云ハリ
さしふねあきふようて陸路より水
をとりて海人世をとりしなり
和名抄船類云桐漢語抄云衣布袖高尾舟
一云戰士可乘之輕舟也
袖中抄巻十云郡中清あり大播磨
印南野あり云寄秋良材あり
續古今雜下ノ老の涙をすこうち
ふて堅中の清あるをすくとて

皇大后宮大夫俊成女

堅中の清あるうびをすくとて
契沖云此女越後守尼ニテ播磨
越後庄ヲ領ス紀ノ通ヲ
ずくのあるを
ずさんで布袋ヲもあるを
ちうにをのうくふのうくるのいつる
ヲ考ずべき倭語抄ヲ以堅中ヲ
あるはあるのさまをあらはす歟因考枕

新古今　夏　人しれぬ　業平集　伊　ものをこそ　も業
あるかぎりなくなれあるあしのやの
あのぐさまぐくなれあるあしのやの

後撰　大江朝綱朝臣
大和ものがたりをそこびくやの
新撰　備前　夫雜八水　貫之集　ちくしきを新
いそのうくふるのそなてはるの
古雜上ノ　朗　新撰　ど新
ふるのうくるのいつる
大伴のみてらの傳未詳

万四
つるぎたちいかしの国にあるらんの
家
いすゝしもたちたやまのあらふ
家　水家
いせ
人まろ

[illegible]

万十二 夫雜山より入る 京入九集

[illegible]

同九 [illegible] 十三万

[illegible]

人まろ

同十一 夫雜八渡より入る 山城

[illegible]

大伴のかさ〻

第三巳出

[illegible]

人まろ

たづふさ

古雜上 貫之集

[illegible] 和泉

[illegible]

たづぬ

續後撰 [illegible]

[illegible]

万九 夫雜二濱より入る

[illegible]

契沖云八雲御抄に[illegible]たづなの濱紀伊と〻もされど万葉の哥の次を考るに前玉小埼那珂曝井などは皆武藏

の名なれば[illegible]たづなの濱も武藏

つきうや

狹衣三

[illegible]

あまのかるもしほなれなれしきもの

同上 同雜中 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

これはそつけのもとく　ふくれ
ぬ　ふくこのうふ髪をあらひ
若菜上に
さ　あ　ま　ま　を　ま　つ　ふ　ま　ば
ま　の　ま　ま　で　か　ま　ま　ば　ま　る
ぬ　ま　ま　ま　ま　か　ま　ま　ば　ま　ま　髪　を
ま　を　た　る　あ　ま　ま　ま

みまくまる　荒磯波よ　袖ぬれて　袖たゝめひろふいけるうひども
手ふれど色もかはらぬ　あたらの葉は　あげきそ　増る　形たのそ　るん
ひすれどとたのそ　物なを　まふとも　かたる　ひとうぐふきみ

このさ　女郎

我命　あ　ん　ぐ　ハ　ひ　す　れ　ば　や　い　や　日　ま　と　ま　ハ　お　も　ひ　ま　ま　と　も

おべのやたとき　万葉と平と　まべ

万四笠女郎　くさの條重出
わ　の　方　ま　ひ　て　ま　の　で　せ　あ　く　る　の　く　ま　の　も　を　ち　く　ま　れ　も　お　あ　ん
同安倍女郎　ぬ方
ま　ま　せ　ま　ま　ま　の　ま　ま　ま　ひ　そ　こ　と　あ　ま　ば　ま　た　ま　く　に
古憶　第六重出
い　ま　ま　ま　ま

貫之集

[illegible]

同

[illegible]

[illegible]

五四　夫秋四月

[illegible]

古臺　新撰　大和　そ古新

[illegible]

[illegible]

[illegible]

靈異記巻一訓釋云家室伊戸乃止
之又巻二云家刀自などあり
伊勢物語ハいへとうどとあるを中
ハ古伝おいとうどとひしかむ
やそちくも目録も赤童子の字
さあてるまてこおわつるあきろ
まとゆかくの妙ゝあれハ改る事
なし

契沖云いでハ物をうの詞之充恭紀
云壓乞戸女其蘭一莖壓乞此云異揖
枕草紙正月をハうらうの條ゝ又
木のもとにゝをてこれよりきゝ
さうていであどうふゝ云

伊勢物語
さもゝろよ衣ゝきさゝひもや
こひしきゝおいでこゝ
拾遺の子袖中抄奥義抄などハ
ゝ延喜主計式云山城國調廣
席二百八十枚狹席五百九十枚云々

万一身人部王　夫雜七濱
大とものうゝの浦　摂津
人まろ

万十二　催口
いであう弱ゝやくぬきゝせまつちゝ山まつゝん妹をりてさやゝむ　紀伊
赤人

同四
ひとゝ山城いうき形るあめを月形よみ門ゝ之出ゝ妹やまつゝん
夫雜七濱
ひかりまげさひゝろう出てきゝ苦吹たゝ為で立ゝうきる
古憲四
さもゝろ衣ゝきさゝひもや系を待ゝん言ゝの樹姫
万四　大伴坂上郎女
久すゝ天のゝ雲ゝおきゝろう系まゝいまゝ結ゝひぬゝ
同十九　藤原清河
あまをゝの行ゝうん物あるおもひでゝこゝするふ主ゝ

拾遺憲四　いせ
さうゝて人のしぬものゆゑ
和名抄草類云黄連和名加久ま
童蒙抄異名分類ハ蓮の異名と
せり
万巻十二
二無憲子思為者常帯平三重可結
我身者成
遊仙窟云日々衣寛朝々帯緩

めぐ毛の花ハ夏めれど月ゝあきびきあやゑがまちつゝあゝん
貫之集
いつゝとも云ハざゝゆめ集　きみ集
おもひやゝ
古憲一　新方　新
ゝ立まれハゝうぶゝ
ゝうぶ有ゝかくもを植てかくも草のくゝちひバ系やをぬべゝ
やうあち
五百
ひとゝへのゝ姉ぶ結ぶん　ビー方
おびを形之まゝゆゝぶゝ　ゝぬ方
ゝあつまきのあゝのゝ下ゝ伝ゝ志ぶゝみゝうあきこのにゝびつゝぶる
さゝつゝをゝ生のゝゝまゝゝをゝやきたれどたゝふぶゝうもあゝぶ系ゝ有ゝ
ゝ志ゝと衣の脈をゝゝ　朽ヲカヌ　摂津
せゝのゝるゝのゝ上ゝ佐ゝゆゝのげゝゆゝ燈ゝ立やをゝゝん

覽新万
あさ彩る糸ゝ[illegible]ぬ[illegible]

ゆげの[illegible]

万二 京極殿集
あ[illegible]そつ万
[illegible]

同十五
[illegible]

同十三
[illegible]

かさの女郎

同四 夫雜六河
[illegible]摂津
[illegible]

不河の女郎

万二 袖
[illegible]

[illegible]

万十一 夫雜十五文人九
[illegible]

同
[illegible]

[illegible]

[illegible]

新古憲一 是則
その原や伏屋とまるたてきぬのうとてやけどあさぬるれば（ハ〻〻て 新）

万七 元版 さゝぶねのあゝ金山よふゝめてハ月ぞふるてよう〻まこぐをそ（立夫 立こぐを方）

同 大伴坂上郎女 人とゝむの條重出
まひ〻てあひくるものを月〻あれば あふこまもゝん志ゞ一ハゝるまで

万三 大伴百代
ぬばたまのよもゝへ〻ハ月ぞふるあさひさハ手ぶきこのへまふるのなづてを（へ万袖 くゝ袖）

万四 家持 袖
入ひまさ〻てきつまぞ夏衣こゝ〻いひてもかへ〻一つるうれ（べうせ〻方）

巻一 已出
夕ぎりよ衣ハぬまてゝさまゝ〻旅ぬきるうもあらぬるゆゑ

君ゝのためぬ出てこぎ〻しあ舟ぞるもいゝでハたゞよかへるまつこゝし

つきゝるゝ事ぬゞうもこそまつときみゝるをるゝへを物ぞゝるる

万三 大伴百代
ぬばたまのそのゝゝ梅をたゝまれて方ゝてをゝで来るゝ思ひ一物を

ゝゝの月ぞ光ゝあるものをよひのやゝをゝまぞ起ゝ〻みそ

古今戀五　紀友則

ゝもあゝ形ぎゝる形のゝれあれや
いとゝゝもてゝゝすをゝ〻ん

人も

指ゝてものをおもへ〻ゝをゝゆみども味よあゝみもすゝ

夫雜二 雲ゝゝ〻〻〻〻〻 古本宗于集
あけぐゝる地ゝ山のゝゝ
ふ夫古

被厭ヲカヌ
やゝとゝゝてゝゝ 佐夫
ゝ

あ秋ゆき

古憲三 家
一のゝゝ
ゝ古

ゝゝ〻ゝゝゝ

文選古詩云行々重行々与君生別離相去万里餘云云
袖中抄巻廿云云おきとふ河云云文字ハ河の助ト云々

古本集
梅ゝ枝を折てちらすな人ゝ見ぬ今まで妹が出くあひしぬ

ひとまる

業平

第一巻出
あきの野ゝ草ゝ分て露の袖よりもあつぎぬるまでひちまさりける

法ゝゆき

後撰二忠岑　忠岑集
俤の江ゝ松ゝ立ちるる白波のこのへる時ゝや新ちぎ有ける

人まる

第四巻出
たのきぐ人ぬるやゝ川べのまの人もあひこぐつまなぐちふ

ひとまる

万十　夫雑七妹　古本集
ひけどあつぬ妹ゆ恋久ゝ人ゝ天の万古イ　ものの古
同四　湯原王
うぐひすあきの野ゝ人ゝ万

人まる

契沖云ゝおきとふ河を表面のことゝ

和名抄雲雨類云唐韵云潦和名雨美雨水也

契沖云在詩ゆゝ云ゝあくぐ去まきめや
まてかる雲ふゝりまきあやのこゝ

人まる

同十　拾憲三赤人　夫巻五鳥子赤人　赤人集　古本人丸集　古本伊勢集
とぶせまもちあゝ人の立ちるるもよびこへ世ぬの立あしとき
新古憲三藤原惟成　まもり拾憲三春　まも赤集帯
まてしいそぐ歩ふふしも月の立の月で人ゝ新　まどふあり新

赤人

古雑上　家
ふる雨のようつぐる雨の立ぬ人ゝ
上古家
まてしいそぐ歩ふふしも月の立の月で人ゝ新

いせ

万十九　拾憲三家　のまぐ
なる神もいよ月ゝ立ちるもふゝ人ゝ
のまぐ

拾雑春遍昭　家
まてしいそぐ歩ふふしも月の立の月で人ゝ新

新朝

万十一　拾憲三家　のまぐ
なる神もいよ月ゝ立ちるもふゝ人ゝ
のまぐ

人まる

後撰恋五

松葉集

古今六帖

袖中抄巻廿

是則集

古意四

古誹諧

夫雑九

後冬大江千里

古意三

万十一

河桐壺

万十一

近江

万四大伴坂上郎女

同二

古意三 平貞文

山城

契沖の説に万葉に名とあれど十名の義と千昭五百名あるの類あるといれども偽名たびていうべ

古今春下　そせい

いさやふじ　まのゆびまずをまん
くれあぜあげの　ゆきのうげ名

古雅諸興尺　家

なにはのそこの　名ばな　たてのきらん　きてはぎふ　ハ系　ゆくの子

万十

あ〜ぐべ　神もあ〜　くらん　ま方　ちど〜　よ〜　ぞ方　やっ　よ　る人の　きこう方　みこう　あくみ

同四家持

今よりハ　名のそ〜　そこも　系ハ　あ〜　妹よ　てハ　ちん　みた　つこも

續後拾憲一八九

おあ〜　名をたも　たそ　たあ　ぶ　ア赤　きて　てそ　あれめ　ら〜　ぶ〜　ま〜　ぶ

なの記名

万十　大雑五池八九　古本集の古きぬ夫　ゆ古

まの〜　池よと　著を　ぎまよ　ぬぶず　て人の　ここ　なる夫　ゆ古　ま城　たつ　ぎま　の城　ゆ方吉

摂津

なき名　ふつ　ちふ　ア赤　ゆ城　ま世　ま　ハ　ア赤　ア赤　ア赤

万葉十一
五背子之振放見乍將歎清月夜爾
雲莫田名引

古今雑下
風ふけばおきつ白なみたつたやま
よはにやきみがひとりこゆらん

五四 佐伯東人
つま枕たびよ久しくありめまでるをとこ
さつぬ

万七
妹ゴあらし我袖ふらん山の端より出こん月ゴ待たまびき

古来歌集
くもゐ妹ゴ待めやまもがたみたまびくはぐのこえとちりあん

第二巻出
たゝちなの数のかたらのまゝにふきくもあるゝ妹ゴ待すて
人まつ

万十一 古本集
もゝとせにもゝよ世にもいきてあらめやとあ思ふ妹を待てあるとうん

同二長田王 夫雑二山ノ
つゝらつゝの沖の白波たつ田山いつゝ雉出ゝ鳴くいもゴあるらむ

山の端ゝ月も出ぬべ一まぐる妹ゴ待ゝ秋ゝまもなく
ひとまち

万葉四長歌
常呼二跡吾行莫國小金門爾物悲
良爾念有之吾兒之刀自緒云

きゝ涙ハ名所ゝあらぐ

荷向ゝ其年の新穀を十陵九墓へ
奉らゝ勅使をのざちの使とゝ
延喜祝詞式祈年祭祝詞云荷前者
皇太神能太前ゝ弧横山打積置氏
又陰陽式云凡獻荷前日者預擇
定大神祭後立春以前十二月五日
卯省又祈年祭祝詞云自陸道往
者荷前使乃荷緒堅縛天云云

万葉十
春去爲垂柳十緒下同
うのかいもゴ山のうのうみるうもと
よあるる数三四そあり

万葉
道のたゝりの條已出
玉鉾の道ゝ出ぬ妹をとゝて
ゝ思ふそ出ぬ妹をとゝて後ゝ思ひんこのも

万土
白妙の袖ゝまくひぬこぎもゝ
ゝ

同 夫雑二濱ノ
たくひ玉の白濱波のよるもあへ夫

同七
妹ゴあらゝまぐるゝ
ゝ

同二条禅師
東路の荷向の系のにのもとゝ
ゝ

同十
たゝぐゝもゝまくゝぐにはきゝ
ゝ

わこのせこ

允恭紀 吉野瀧
そとをりひめ 忍坂大中姫妹
ゝ

おとあひこよひ紀
ゝ

ゝのたの女王

[illegible]万葉めきて万葉[illegible]
松葉集ハ作者を坂上郎女とあり
面影山いづくぞや夫木ハ因幡ト
松浦ハ長門とあり

万四 [illegible]

夫雜二山坂上郎女 つるぎとぐ面影山のさくら花ねいまのこころひてあぬ夫ハ[illegible]

かさの世ゝ

あ形ゞ人

万十一 拾意三人名家 [illegible]

同四大伴坂上郎女 [illegible]

あ[illegible]

第一巳出 秋交條重出 我[illegible]

かく[illegible]づま

万十 喜人名集 [illegible]

同 夫雜二山[illegible]猿集 [illegible]

かるのやゝとあるまゝ延喜神名帳云大和國高市郡軽村神社二座とゝ也

いとひつきハ万葉ハ齋槻とかけり神木の義ありとゝ和名抄木類云唐韵云槻和名豆木名椹作弓也

同 同雜二夫社[illegible] [illegible]

第三巳出 [illegible]

第二巳出 [illegible]

万八 笠縫女王 [illegible]

同十 王憲二[illegible]大嶽三傳 [illegible]

第三巳出 [illegible]

ふたのきおもひ

伊 [illegible]

万七 [illegible]

万七 童 [illegible]

[illegible]とゝ[illegible]や八吉茅や茅葉やの[illegible]

契沖云ちづはいやきまのくきる衣
あれが民をもつとつかふこそ
古今雑上　よみ人しらず
いとしへの志づのをだまきくりかへし
よきもさうはあらしまあり

万四安倍朝臣蟲麿　夫雑七戦夫
まそかがみ　たまもかけ　あすもあるぬ命をたれぞかくしこひ泣る
伊勢

家
さくらちるつぎさのあきをとろふるふるさとをいでやひとく見ん
かさの女郎

万四　夫雑五海　よみ人しらず
伊勢　なにはのいそもとぶよるなみかしきくを見てるうの毛
元良親王集
ふるさとさへあつくぞなりける　ふじの山元
ふじの山　雪はあるひのあるけるもの

要　こく

拾意三　家
四月もかげのみ長きようつりうつる物のあきこそもきるこの雑
人をもかひなし

古春下　よみ人しらず　新撰　第六重出　山賤
あをそらの山のうへなるあをまつ　そこ形のさうふあをまつ古
ひとりのみ　ひとりのみ　ひとりのみ　ひとりのみ

けんたづ

さるの声はくあはよりまさ
よりいて
後撰戀一　さるが
すどろすぬらべも人をえてるるめ
はさ〳〵ふんまのくらのゆを
山家集上
まくれぬまくべくしかはしひ所より
まさしくこゝてのあふこの夏
れくゝくゝ契沖雑記ふゝさう

拾遺雑賀　よみ人しらず
佛ふあるといいますべ
るれぞおやうどのうちかなほ
無量壽經上云佛告阿難法藏菩薩
今已成佛現在西方去此十万億刹
其佛世界名曰安樂」

後撰五　大　古春集
いせの海ひろくても今ハかひあくおもわ世るるなる　あをてふひろあるべき後
新古意　よみ人しらず　伊
ひ地の井もの深くるよ　深てたのみ　みなもあるを世あるるを
さるの声はこそたのみしらんとてあるるうこひしさ　頼ヲカス

くるさの女王

万四　新續古意二
世をいとへ人ごとまげしこんようもあるんくるべ今なくぞ　ヒゲゼこ万續
古意二　よみ人しらず　新撰　古本接尼集
さんようもぞ朱あるんめはるはるあきくさ芳とおもふん
ゆ世のまるのうてはれてもおもふん中もたるべどそふ
このようてはさるうあはるうぶさんようの海士と蛍てうづうん　八蔵

たづこのさ

はくうてあうべきうのうあんようもをとんうるべ西の海まに

かさの女郎

万葉十六左注云寄物陳思可
遊仙窟云記念」
拾遺哀傷　よしみねのぶよし
いふせんそのぶよしるもつゝゝびぬ
ゆくさゝとみそてぶよふるれば

ちくさ　紙あのちなとある八列近院
右大臣のひるすゝ此作者の名今ハ
とてのゝこのまくまきくをふと
うつゝあやまれるゝ

新勅撰雑四　前參議教長
形ようする吹上の浜のさゝ波の風
吹ゝもうらぬ方ぞつもまる

たのむるの條已出
我ゝくゝまつまのぎきあゝまのくるをきくあふもうそん
後雑二ゝまの教長母のめのと　子ヲカヌ
むまびゝまつゝゝこだるまつとびの仏のまのぶのうをとつまし
やるのよのゝをかゝゝゝたのめどもゝつゝゝきゝてゝるまるゝ
古憲門近院右大臣　おのゞまの　古
いまもゝとゝてゝくまゝゝの業をひまてゝ和歌ゝやかゝゝと思ゝん

ゝゝあつのたゝゝ　文徳天皇皇子

同　奥風　家
をまゝまでの形えゝとゝめけめ深ゝうぶゝとゝゝぶゝあゝゝを
同　よゝゝゝ

浦嶋子傳云當雄略天皇廿二年丹後國水江浦嶋子獨乘船釣竈亀云云須臾向蓬萊山與神女共入玉房云云嶋子曰願吾暫歸故里云云神女曰然哉與玉匣裹以五綵絹云云誡嶋子曰子若欲見再逢之期莫開玉匣之緘嶋子乘船忽以至故郷尋值七世之孫云云至不堪投玉匣見底紫煙昇天無其賜嶋子忽然須天山之雪乘合浦之霜矣

万葉十一

月之有者明覧別嘗不知而寐吾來乎人見兼鴨

名を忘れの除已出

玉匣おほふきやまきあけてくばかれ名ハみてるるるる名をこも

夫雑七浦

ふなぢ江の浦のるがまこげあけざるまでくば妹よるきあほ

ほひるとくよまるる名ハまこころてみるるるるこげふ

伊勢集

水の江ちるくくあくべごうひきの花の根笠ハ吹てごよくば

ふるのをうれすその日ようあるこげれあけられいこよ

ゆきくみ天ゐ

万三

あきつ鳥の袖ふる妹を玉くしげおくよ見てをくたくまかるる

古憲三

玉匣あけばるがる名をめぐきよてこぐこを人くくんこのまち

要こ

玉板家

うれてもくるうるるこ浦ハ玉くしげあけられぐき形えくりう

くつぬ

古今戀一

よくくしげ

玉匣あけてくるる秋の夜ハ月ひとりをぞ寝ぬるかな

下同

古本集

伊勢

夫春二雪家

きえくるるこ花のくれば雪のくれぬるるこ

玉くづくく

家

くちくくてくるるをみるるるるるるくくく

万八
[illegible]

同
[illegible]

家持

かゝ

同上 拾遺三 古本人丸集
[illegible]

同二 古本人丸集
[illegible]

同上
[illegible]

人まろ

万葉十二
待君常庭耳居者打靡吾黒髪南霜
曽置爾家類

拾遺哀傷　人丸
[illegible]

同上 拾遺三 古本人丸集
[illegible]

古本人丸集
[illegible]

万
[illegible]

重複也
[illegible]

[illegible]

第一巳出
[illegible]

躬恒

万土 續古今
[illegible]

古本人丸集
[illegible]

新拾遺三
[illegible]

万二三方沙弥 古本人丸集
[illegible]

同上 拾遺人丸 家
[illegible]

同二 食人娘子
[illegible]

第一巳出
[illegible]

毛詩衛風伯兮篇云自伯之東首如飛蓬豈無膏沐誰適爲容

万葉三
鹽之海人者軍布刈塩焼無暇髪梳之少櫛取毛不見久而　石川少郎

袖中抄巻十七云とうせいこうく〜はあらまうんぞ此うこと云帖おくーのうことに入てうくれくハくーろとよくくをもうまきてひくくこ様くこうんぞるれえ」

古本人丸集
あろきたさまつげ様のふうけれくなうくども君がうれどあるぬうも

万九播磨娘子
るうこうぶハまでうのうぞうおまよあるつげの小様もうくこ思うぶ
めつ〜〜の俗已出　あ〜万
とくめまうぶ玉重あるあぐ〜よいぶう〜今も妹よ見まぐれば

新古雑中安平　伊
せアのあぶあぐの塔燒いくまあ〜つげのたぐ〜もさこぶきうん

万九振田尚宿祢
つうぶせうこ様まあ〜あんひううのおくまあさてあれゆうま〜我

人麿

同土
多所自あうふつげぐ〜あるうぶでも仁のでもうぐいやめづ〜〜き

後雜二大江玉淵女
なのあぐこ仁のもあぬぎぞ後みぞこ〜ふうきんのきう〜だうぞ後

大伴のきうぐ老

万三
一日あハちへきあきあくよ思ぐでもあぐおたのあれまよきぐこれ

第四已出
つあぐも神よたま〜ぬ〜〜あきうぬ人をこあうの浸あうけ里

万三河辺宮人　古本猿丸集
人ごとのあうぐあまあれおてうひぐまま〜を

古雜上　新撰
ぬ〜やあ〜こどあ玉〜〜〜あくにさぶあぐこやたのくれこおもいん

万十一　新勅撰三　續後撰憲讃不知　寛　京人丸集
行あうあてこうぶぬくあ玉　不寛　ぬきこぐる万　新勅　續
あ〜の様ぬ様ぬ人ぐこうあうひて様びこしあの様こうぐ人こ〜〜んやハ

同七　も万　いを古　やまぶ万新續古　のしうぶく万新續古　やまぶ〜ん寛

かさぬ方

万九
妹ぐためうれあひうぶ　もとむ万
後春上伊勢家
あ〜玉をつあ柚の〜ぶぐるハさるハ浸のぐ〜ぬありけ里　よき万

第三已出
ぬき〜あ〜人こそあ〜しあさまのまあくあちうあ柚のせだきに
うそこあうこぐふ井こあぶぐこそ柚いこぐ〜ふ玉もふうこくん
こ〜あのあをこうこあ〜まこようてあ玉のこうあこ〜こあ系絶めやき
まうぶ玉あふこうひこあ柚こうちここく系ぶあぐここぐ思ふ

文武天皇

古今大歌所
まうぶ様をこういこふうこうこぐひまの
ゆこてふここふこうめけまぐのこと」
万葉六長歌
物負之八十伴緒乃打經而里並敷

文選石崇王明君辞云昔為匣中玉今為鞍上英朝華不足歓甘與秋草并

契沖云玉の緒ハ玉を貫く緒をふ
ゆ　おわくゝぐるとふえん緒を引ふ
まさ　命をもふ　靈の緒を

万七　字
ゆ　ら字　ま　ふ　ま　ま　ま

万二 続後拾遺二人丸 古家人麻集

いきの緒よりそへばくるしき玉の緒はたてばたゆるまん続

同 古家人麻集

玉の緒はたゆるをよそにつきもあらじひとりぬるよの月ぞ

続後遺三哀之 家

あはぬまてふきてをはよりぬく玉はゝてゝ続家

万二

玉の緒はたぎてくるしきるとこ方

古遺三 家

たゝまくのくるしきこゝろこれば古家

友名

同誹諧

思ひぬ

おもはぬこゝろやはいひそめぬるぞよの中は玉だすきかな

おもはぬ

おもはぬこゝろ玉襷こゝろにかけるこゝろの

玉襷

うけてはあふこゝろ一人のこゝろやうけてはあふこゝろ一人のこゝろや

万七 夫雜一雲

おもひあまりいとゝもすべなきこゝろ哉

うねびの方 ゆひぬ方 の夫

古事記上巻云天宇受賣命手次繫

天香山之天之日影而云云

太神宮儀式帳云多須岐

拾遺秋

白露のおくつゆまてする女郎花

あるこゝろ一人なるこゝろ

万葉三

橘寺屋前雨植生立而居而後難悔

驗將有八方

大伴阪上郎女

かゝ

万二 新拾遺四人丸

まゝ方 そ方

袖たゝぬ妹をこゝろ

む方新

ねぬ方新

ゆ方新

同四

まゝ方

袖とぎ

ゆゝ方

ゆゝ方 い方

袖ゆふとも

坂上の郎女

ひゝまの袖

同上

そ方

ますらをみもの

新勅撰戀一

權大納言公實

おもふこゝろ

おもふこゝろ

万九家持

かく

ゝ方

あはぬ

後離別 大父ほのゝ

ゝ方

ますらをみ

みを方

ぬひ

き方

家

後撰戀一

よゝ

ゝ方

夫雜二山

同

ふゝ

ゝ方

袖

と後

下野

拾春 亭

是則集

そ拾亭

拾亭是

たゝ後

たゝ後

是

袖

古今戀四　よみ人しらず

かくこそと人にしられぬ思ひをば
こんぜんぜん　時もあらばやな

万十一　猿丸集　古本人丸集

思ひそめしこころ　猿

後意四　伊勢集

かくこそと　伊

あふ伊　こぬ伊　後

まくら

古意一　新撰　我恋を人しらめやも　枕のごとぞ　新　しらもの　新

同三　貞文　古新

まくらよりみちる人もなきを　古

傳未詳

五四　安ぬの枕　ようくるエ　みくだるエ　うきぬをきつる　ケ方

同　いくそばく方　ひけめ方　四方　枕　つるエ

古意一　新撰　ふ古　枕さだめん　いとはぬ　おつるなみ

五四　大伴坂上郎女　夫雜十四　たまぬ　ふるまを　いぶふるかん

人麿

和名抄木類本草云厚朴一名厚皮　楊氏漢語抄云厚朴保々加之波乃木

又云兼名苑注云黃楊豆如色黃白材堅者也

文選王褒聖主得賢臣頌云蟋蟀俟秋吟蜉蝣出以陰

同上　續古意四　古本人丸集

袖さへぬれぬ　古本

夫雜十四　河須ア

第四巳出

万十一　夫雜十四　人丸集

古本人丸集

古本人丸集

万十一　夫雜十四　人丸　万

たまくら

紅のやまぶきの衣あまたまきいでくるまきくるまきのんとぞおもふ
百十 古本人丸集
ちるまこそたもすべなみ
同 同
今さらにふるぶる枕まくらの紐めやこぶちさ掛よとけてまもなし
同三大伴旅人
うつくしき人のまたてしまぬの系くも枕をまく人あらもや
同六家持
せきあくばうつるまもうちまきてるちぶる枕きてぬまし
つるぎもてぶぎもぶぎ〜しるはおるびてこぶたまくらを系ぞしてぬ

第四臣

かくれたひんものぞとちつぬば妹ぶる枕まろぬるもつつ実

人丸

百十 夫雜西王母 赤人集 童
見ぬもくまだまもやふ織機はるぶる衣よ
新勅春上曾根好忠 袖九
さ佐姫のおりみさに落たちきるまの衣ぞ

河社四云ふひきの小系とは麻ぶ
ふふひ〜て後度をむく あく
毛詩陳風東門之池篇云東門之池
可以漚麻彼美淑姫可與晤歌

後蹋旅管原右大臣
ふふひきの白系さくおる機はたちやうさわん
百十 續後撰上
白雪のふきまぶよりの
同 赤人集 夫秋妃赤人
たまぶるの白さたてる布の秋さ衣 袋ちぶ
くもてぬきる分ちぶうまもあさちまおりてるるよ
後撰 機おもぶる秋の
いそたふ
いそたふ五十機の又おる織ぶ
ふふ乃と孫と出あやまりやぞ織ま
ふさくやう〜まあ〜んう
賀之集
ちつたふふふぶんてどとふ
たてあきう〜ておまるうぶ
万葉十一
紅之深染乃衣乎下著者人者見久
爾仁寶比將出鴨

夫雜五鳥 大和
たちぶ系のうぬ〜ちれば
同 夫雜五衣
いまつくるみぶ〜の
同土
衣〜もおぶ〜あ〜ん
同七
たちぶ系のうぬ〜ちれば
同土
ふのこぶ衣ちふ
いそたふ

万葉十二
大王之塩焼海部乃藤衣穢者雖為
弥布将見毛

拾遺戀二　貫之

あひ見ても形もあらぬこころゝ地
いくくるしさ　ゆてうえのさむべき

和名抄蠶絲具唐韵云蠶和名波万由久桑
蠶即桑蠶也

第二帖　七夕

いとゝやも　ゆるゝこゝろの　ちがひより
あまとゝふくぞ　おもふあくふ

後拾遺戀四　清原元輔

なぐさむる　ものもあらで　あるものは
のべもてゝろあらぐめきけり

万土　風憑二　夫雑十五衣人
かゝるあるよやほのゝ云あさ
ぬ　まとすれども風　いや万風　めづらしみ
もあり

えぐゝふ　ゆゝもあやふかゝる云袖こそ　ひちあ云さめ　ぢ我

万土　夫雑九衣人
古衣きてつる人ふ　於風に　ふきたつ　ときゝよ　まの　ぬ　つ　ま　の　ぞ奥
うつてし万　ぞ万夫　ぞ万　ぞ万

同十四　同　口　奥
ぬゝくだのゆひくふまの云いあれどるぐゝみ　ぞ奥　ぞあやふきまゝ　ぞ万奥　ぞ万
ぞ口

同八坂上大嬢
秋風の　こゝきる日ぢ　こゝろ万　ぞ万　ぞ万
いとゝやも　ゆるゝかゝゝふる云　あゝゝあきせん　妹もあゝ　ふ

さゝ舟　ぢ　袖　ぞ　ぞ　ぞ

和名抄染色具唐韵云縑御紹疑御染
實也契冲云つるぎゑハくぬぎの実
なり清少納言みおとろしきもの
ゆるぎの実といへり俗ゆどぐり
とゆとのくまてそめるなり

古今戀五　よみ人しらず

あふことのもとゝたえぬるはてなれ
人のまひしきこゝろもまりけり

第一巻出
つるぎ人のそれるたるゆよたをたけてらをと結るとすゝを
万七　つるぎよきあきる人へらとなとひ〳〵はすきまれ（万）くとなるる
月十二　柳のあをせよ衣のうゝ（ゝもの万）ゑせハ彩（うれ）ゑひあやもか（万）ゑハるゞきるうゝ

結やき衣

古意五　いせの海士よ（よしゝ）ちあをたをれをさ（ゆ）あみ衣ゑあれやいまゞ（きゝゞ古）ゑまぬ
万十一　続古意四　夫雑七後　古来人集　たれ古本　ちゝよあまの結ゑ結ゑいあれ（ふたゝび夫）ゆけゞ（れ）ちひてゝまの（るまとる續）ハるゝ結ゑうゝ（つゝ素）
筑前
伊勢の海士の結ゑ結ゑ衣なれてゝ人の恋〳〵きゝ（ゝ）ゝ
新古意三　資宮女御　家　なるゝゝハらきせゝあれゞゝやきゝのなゝ結やきゝいまゞゝ
後意三　いせの海結ゝ（伊勢集　ゝ後）あまの音ゝなゝとハゝ（き後）ゝとあらぬ恋ゝ
万六　山部赤人　伊勢の海のあれおゝ一百ゝ恋ゝ忘れておもゝん
ゝま万

夏衣

万十　新古意五人九　家　赤人集
こゝるゝのちゝ（ぬゝを家）かゞゝゝもきゝ（あゞゝゝゝゝ新家）ゝあゝゝゝのゝ（ひゝゝきゝも万）ゝ
ひゝゝゝ赤
なつ衣うすきゝときゝゝゝゝ

波のあやをいとなみ秋の夕ぎりたちこめ[illegible]

第一又ながさの修己出　つきもてるころ衣あらせばあれとのぞのうてきこの比下るきま　茂

衣うち

拾遺貫之　家　風ふけばうらうちきぬ衣みぢの下まもるうつろひにける

寄衣

ハセ　さう拾家

たづねあまりてとろきくたふこゑうづを聞うちてる月の梁

新勅撰下貫之　家朗　あづまうちあきけばあり月清みまぢ移ぬ人を聞うちてきけ

恋ゆき

新古撰振　家　秋の夜ふかくなるめをとをうつあり立而やうつほし

松ふ

同撰下　家　ふけり新　ある新家

ふる雨ゆて吟風さみ[illegible]家　ふる新家　松新家　[illegible]

古今秋上　よ人ちぐば　衣をさをひ衣うがきあく秋さに　さぎの下葉もうつろひまけり

万葉十八　波里夫久路已礼波多婆利奴須理　夫久路伊麻波衣天之可於吉奈佐　備勢牟

[illegible]

古代歌第二ホ　[illegible]

芹河行幸八日本後紀弘仁紀ホ[illegible]

[illegible]

頭聚云芹川野行幸[illegible]

加里衣

後春上　[illegible]

第三巻出　おきなさび人なれぬれそかりぬいけふさろこそたんも[illegible]

右芹川の行幸は在中納言かりぬる時[illegible]

代歌一　古本集　うつ衣ぬいうらうらはほさるふあどろぶれて物おもひをる

さてるま衣

新古歌　紫平　家　伊　すまるの[illegible]

万十一　古本入九集　さてかりぬきこ[illegible]

同十一　新千秋下入九　夫秋三萩　[illegible]

[illegible]

はこ[illegible]

[illegible]

契沖云万葉第四ホ[illegible]

[illegible]

結ふ[illegible]」

[illegible]

巻五

契沖云新さ記守とよ[illegible]書紀天智紀云三年於對馬壹岐嶋筑紫國等置防與烽又於筑紫築大堤時水名曰水城云云早さき寺を[illegible]

[illegible]

第三巳出

あさぢ原

[illegible]

万七 拾雑上 人作 夫雑上衣

[illegible]

同 夫雑上衣 拾

[illegible]

乙麿卿

同藤原卿

麻衣きれば[illegible]

かたぎぬも

同九 夫雑上衣

[illegible]

めもぎぬ

[illegible]

なるきぬ海士のぬれ[illegible]

万十一

[illegible]

新撰万葉

女信芝秋在名緒貫立沼濫置白露

緒潤衣冊服手

[illegible]

後撰恋五

中将内侍

[illegible]

大和物語

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふくま

万四京職藤原夫人
あつふしてよもおごやぐとこ[illegible]ぬぐれども時〳〵[illegible]ぬぐへそ[illegible]

同十四　夫雜十三云庭[illegible]
[illegible]

同　同冬
きみ人のまぢかくぶすまのまくらさやらひ[illegible]の時がもどきて

雲

同十　新勅撰　古今人丸集
[illegible]

同　古今人丸集
[illegible]

[illegible]
[illegible]

人まろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひも

古意[illegible]　新撰　古今信明集
[illegible]

九恭紀物製　續古意三　古今人丸集　與袖
[illegible]

古意[illegible]　宗千集
[illegible]

[illegible]

人丸

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第二巳出 [illegible]

後撰三在原元方 [illegible]

同 [illegible]

同 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古意四[illegible]也 [illegible]

万九 [illegible]

[illegible]

万九大伴卿 [illegible]

右一首

家持

新古今春上

[illegible]

下旬

[illegible]

夫雜上五位家 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新勅撰戀三　都芳門院安藝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かぐといまんまろみひさち常といへ
るなり云〻
和名抄腰帯具楊氏漢語抄云鈒具
此間云 腰帯及鞾具以銅屬革也
同書香名類云薫爐比度

拾遺雑賀　天暦御製

さうかけてなく初がつくあうみより
ちぢのくまに
ちるふあぶべき人やまつ〻ふ年

後撰秋上　よゝ人ちぢ

ちぢのうんあるのをまちふ〻ーてん
ちまつうちうみようめるちのぢ

万十三
みづがきの久〻きとき世万
ひとをを
新拾遺四三條右大臣の女大
たきもの〻かぐりの見ふ四ろろよ
夫雑十四よゝ人〻ーぢ　河辺木柱
くめ紅物のまの〻ーふ
同
まのちよひとやや伊ーたきあ〻それも見ひよちんてしろふる
ちぶ〻あいふ初ぶるたものをひとしもおきあさぢとおもほゆる式
まとの〻ふ
續後撰三〻〻〻ーぢ　亭　代憲二
ちのぢうちたのめおりちんさるのさふまぢーも留る命あるやや
きーーーそーふよりも増るこのきを頼あ〻ぢたなふこの　きん
古意四典侍藤原因香朝臣　ちあるふ拾
たのちちーーてのこの柔ちふ〻ーてんうぢ〻ふれば垂おなー
ぢてもちーめ立面山ちるとそもなぢまちるそもあき

万葉八
春霞重重不住者今朝鳴之鴈爾副
而去益物乎　但馬皇子
拾遺別
こうれちハ色ーき人のふ〻ちれや
やーでのこうをみまくわ〻れ
紫式集
ちのぢてぢてぢーーー�ー�ー�〻ーーーーーーーー�ーーーーーーーーーーーーーーーーーー�ーーーーー�ーーー�ーーー

の石垣間とあるとこめてなどなさ
カギロヒこ何きこあるとありされば
さうも玉鉾のあるう那さうとあり
きんをもやく玉章とかき侍へ
うくも考つきてこの係こ入れられら
ろくあるるるや後撰雜二讀人不知
あつれくもうくくもいとうけつ
何るうあさふけめるるあれど

續後拾遺戀四　延喜御製

ものおもひのゆくもまぬ行あれや
うくつけはんまくるなた

一代要記云村上天皇諱成明醍醐
第十四皇子天慶七年四月為皇太
子同九年四月即位于紫宸殿
重之集云位の上武の故ふ紫宸の
大殿のほとりもそ子ありかくきまか
きあくそおほやけもやされること
をそ思きあるおそれて侍る

古雜下　家童

つもすくまん時あのべこで侍るるゆくもまぬ行きとぶまる

伊勢

くるるるのつくぶるもきそ
ふるくるるる

もろづきあるらろ」
宇津保撥上巻
ちとのゆもゝ君子ゆゑ
ゆゝもゝゆゝれてかゝゝゝけ」
文集新樂府五絃彈詩云秋風拂松
聲韵落第三第四絃冷々」
袖中抄巻十云頭聖云ちゝひとゝ
下樋とゝ琴の腹の中に樋る似
まゝ下樋とよめるゝ

新勅撰五
ものゝ
古雑上
新撰
すゞ古新
同物名安部清行
拾雑上斎宮女御古本集
金朝
万七
袖八雲
夫雑四
東
第四巳出
伊勢集
袖八

あつまの琴の調べをたゞしくとゝのへ
琴の調べをたゞしくとゝのへ
琴の調べをたゞしくとゝのへ

順集云かゝ竹のふえ[illegible]ひよあそ
びあるさを[illegible]
童蒙抄巻六云まちくゝふ呉竹と
いふこゝ[illegible]呉の国とい
ふよう出るゝ
大和物語
ちゝのきハくゝのふきう笛竹の
こちくゝ[illegible]
伊勢物語
いへゝゝふいそねゝむひとさゝ[illegible]
ちゝろ[illegible]
和名抄琴瑟類云兼名苑注云簫[illegible]
[illegible]高麗用此字除吹處而六孔之
笛也」
契冲云應神紀十四年十六年葛城
襲津彦大将とありて加羅國ゆおも
むきしるあり かく武将とあれる
人あれハ[illegible]

ひ[illegible]いとうくゝ[illegible]けの吉あれ[illegible]
新勅憲五よ人ゝ[illegible]
いへゝ[illegible]ふのゝ[illegible]
[illegible]
笛竹の一ふしむ[illegible]
夫雑五池よ人ゝ[illegible]
[illegible]
ふき夫 大和

ゆゝ
万十 夫秋六檀
[illegible]
古憲四よ人ゝ[illegible]
[illegible]
同雑上 同
[illegible]の小松[illegible]

きの女郎

此ゝる詞ゝ[illegible]
かゝ[illegible]万葉の訓ゝ[illegible]
[illegible]不来ハ不来ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

古本集
かくこひん物とさそうきびの梓うちきるのなかごろあまこてまし　ち歌古 なし古

人まろ

万三 問人大浦 夫秋四月家持
天の原ふりさけみれば春日なる三笠の山にいでしつきかも　ちかよん万ナ

元輔集
[illegible]

万二 条禪師 夫雜十四
みちのくにあぶくちのうちらうらびてぞ　もく万

矢

古今大歌所御歌
みちのくにあぶくちのうちらうらびてぞ
まゆさへよりてまゆびくろ

万三 笠朝臣金村
まゆみをいつるやをはらん人はかりつぐうに　ぬ万

たち

万葉十三
思遣為便乃田付毛今者無於君不相而年之歴去者

同 四 山口女王
[illegible]

古今戀一
[illegible]

万十一
[illegible]

同 古本人丸集
[illegible]

同
[illegible]

同四
[illegible]

同十
[illegible]

かたち

難ヲカヌ
[illegible]

さや

万 大伴坂上郎女
[illegible]

契沖云刀ハ男の具こそれを子に
[illegible]
源氏明石巻云さてこのさうあるさと
[illegible]

かさの女郎
[illegible]

後撰戀四　　よみ人しらず

[illegible]

後拾遺雜四　　紀時文

[illegible]

姓氏録商長首條云呉國雜實物為交易其名云茂賀理其中有[illegible]雄云　藤原成國

後撰戀四

[illegible]

袖中抄卷十五云むらゝハあぶぎを人のゝ[illegible]ハよみのめたるゝ

後撰戀五

[illegible]

なゝつゞのさゝぶのうらもゝづゝしてゝ[illegible]

そこのすを

寛新方　夫雜十五方

[illegible]

[illegible]

童

[illegible]

呉衡氣

[illegible]

あふぎ

袖

[illegible]

大袖

[illegible]

後離別

[illegible]

類從本句題和歌集の作者は伊勢の作とは[illegible]

[illegible]

源氏紅葉賀卷云[illegible]

[illegible]

契沖云[illegible]

[illegible]

大

[illegible]

句

[illegible]

貫之集

[illegible]

拾雜秋元輔　家　新朗

[illegible]

[illegible]

かさ

百三人丸　字

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同　夫雜十四方

[illegible]

同　同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゐ相ふ用ふ

古今大歌所御歌

まつ柳をゝ手まゝてうぐひすの
めふてふるさハゝあれにこゝろ

風冬大中臣頼基 家 山城

ゆきの山をたゝのゝ山をひも折くはすゑ日よ袖をぬゝてぞ

新千誹諧頼基 家

ちるゆきのてハきてもえるべくまゝゝ日ふをぬゝまふ梅の花ゝ

万十一

かさゝゝとゝいひゝ日づゝこゝまゝゝゝ見がすぐゝ

同 續後撰藤原人定 古本集

ふかせこゝろ袖をたゝのゝて摂津まの浦の小菅の菅をきゝすてきゝの

第二已出 万續古

きゝゝぐきゝるこゝ笠の山よゝるゝをれたゝてゝゝゝゝゝるゝれ

万十

つゝぎもてゝゝ使をまつとゝ菅もきゝで出つゝゝゝ日よゝゝゝゝ

ゝ方

みの

同十二

久ゝゝの日よゝゝる日をゝ系門ゝゝの菅もきゝでゝる人やたゝ

ゝゝ

古意五

さゝゝゝゝゝ

第一巻出 紅葉の赤袂ふ一ぬ法、まれでおまへ人まへ法ふまてまー

いろ

貫之集 あさ色ともうーしとも思ふそあ色や岩る涙よ袖の濡ぬ貫

古意五小町家 新撰廿家 色ここそでうつろふまへ世の中の人の心ぬ色ぞみくける

そめばそそ色ともこそあ星陸ぬおぐつるまくもたつぶ名武

まふれど色もふふぬるもーもいるるそよおもひ木のうん

古意五よ人一ば 躬へ重出 よの中ぬ人の心ぬ花陸のうつろひやさぬ物ぞみくる

同雑上近院右大臣 新撰 色なりとくやこそうふきんまそめてーもの

續後意一よ人ふ宮 おほつ永何ぬそふ岩ねどもたぶ陸くの思ひそめ名む

くまたのる

夫雑十紅よ人一ば 後撰 紅まれば三輪山をそ見ぬにわへせるまむ

夫

帛紙裏衣くも又十三ゑも當土足近貫 同 かくらふとまぜの山をそそくとのよ子め神のまぬーーれ

ともゑ又十八ゑも等能乃多知波奈比乃多 抄意五よ人一ば 紅のやーはの衣かくーあば思ひそめずぎ みぐろ什ふ

底里爾之氐ともこ色 童 かくざろ亮ーふ亮ーふれ末法もむ花のそよ出めぐーー

後拾下よ人一ば 古風川 色紅ふ宮の山ぬもみぢも後ぬ八ちるるーー

童 いろーてあひをとくくさんれぬやーはの衣まこりくちーく

古意四よ人一ば 紅の初霜陸のいろご深くをおもひーーふらくれるわそまぬ

万十一 古本人丸集 それまるぬ花ふーあぜ古ば衣まに陸つきもちてゆくべきものそと

ふ妙の赤衣まふくを陸れ岩くるんいうつろちんやま

古俳諧よ人ふ宮 紅ーー陸ーーたのまれずくをあくーーうるふく古ぬ

同意一 人ーーきぬおもべくるーーふのまつむ亮のそよ出ぬ舞

此いにしてのうさ童蒙抄巻六ふ古今十九ふありとゑもされど今の本ふそ みぐろ

後拾遺秋上 良暹法師

そでふれば涙ぬこぼれけり秋の陸そ まくりゑるそでゆくべりけれ

古今戀二　そのゝ

[illegible]

契沖云よこ[illegible]ハ河内ニ神名帳ニ河内國渋川郡横野神社とあり

万十 拾意一よみ人しらず 人丸集 下六拾

[illegible]

万十六豊後国白水郎 第三已出

[illegible]

続後拾下よみ人しらず 代秋下 やまと続代

[illegible]

古雜上よみ人しらず

[illegible]

同 伊家

[illegible]

業平

万十 大春二鶯 赤人集

[illegible]

文選仕昉天監三年策秀才文云昔紫衣戯服猶化齊風

古今雜上　よみ人しらず

[illegible]

同四麻呂連陽春 猿丸集 夫雜十

[illegible]

古意三よみ人しらず 古

[illegible]

万三 新拾意一 夫雜十 家持卿 近江

[illegible]

河常夏

[illegible]

続古意一よみ人しらず

[illegible]

古誹諧 家

[illegible]

そせい

後撰戀四　よしみちび

[illegible]

新古今春下

[illegible]

みどり

古春上　寛　新撰　家卅朗　風体

[illegible]

拾遠三　よしみちび

[illegible]

同雜上　家　たれ家

[illegible]

同春　よしみちび　寛　新方　新朗

[illegible]

ふ―き

古雜上　よしみちび　新撰

[illegible]

同秋下　新撰

[illegible]

後秋下　よしみちび

[illegible]

宗于

[illegible]

拾遠　本拾

[illegible]

いせ

[illegible]

せきや

[illegible]

寛平歌合

[illegible]

史記項羽本紀云富貴不歸故鄉如衣繡夜行

前漢書朱買臣傳云上拜朱買臣會

同

[illegible]

古秋下　新撰　家　大和

[illegible]

後秋下　よしみちび

[illegible]

貫之

[illegible]

同冬

[illegible]

忠峯

同秋下

[illegible]

同

[illegible]

いせ

[illegible]

替太守上謂賈臣曰富貴不歸故鄉
如衣繡夜行」

[illegible]

榮花みるの月は巻之

[illegible]

後秋下よしみねのもとをおくぬ紅のつまれる木の枯れおくまるけう
人丸

万十一 夫雜十五よしみねぎ 古本集 [illegible]あけてゆくも[illegible]ぬ命を古夫 [illegible]ひつやあくん
つゝゆき

後秋下よしみねぎ [illegible]

古秋下よしみねぎ 新撰 大古本文充集 [illegible]
[illegible]

後秋下よしみねぎ [illegible]

同よしみねぎ [illegible]

華陽國志云錦江織錦濯其中則鮮明
文選左思蜀都賦云貝錦斐成濯色江波

本文題の[illegible]
藏本[illegible]補[illegible]

延喜主計式云上総國呉服綾同遠江國呉服綾白二十疋赤十五疋云云

延喜内藏式云中宮御服料云云右年料御服以寮絲付河内國依件雇織所収寮産又云染手二人染女四人云云
又主計式云凡貢夏調絲者伊勢三河遠江美濃但馬云云右十二國並上絲とする

[illegible]

[illegible]

万七 新十壹三 古本集 [illegible]

いと

古壹四 [illegible]

[illegible]

万七 夫雜十七 [illegible]

[illegible]

童 [illegible]

[illegible]

和名抄蠶絲具云絡垜楊氏漢語鈔云瑣々

万葉十二

嬬嬬等之績麻之多田有打麻懸績時無二戀渡鳴

續紀云神護景雲三年三月始毎年運太宰府綿二十萬屯輸京師

後拾遺戀一　　能因法師

みくまの浦にあまのつりなわ打はえてけふのほどをあやぶまるかな

みぐれ雨の糸のくるくるとふるみぞあくるとふるとあるを

沙弥満誓

さつまませい

万三　夫雑十五

きくあひの法くのうらふるまうみてまぐれきなぐも吸ひてくるの

ぬの

同古　拾意品よくぐ　夫雑三里袖

玉ほのまさくに祇布さくふまうくふまうくふまう